

指導あつての評価 評価に基づいた指導

「どう評価するのか」の前に、まずは、「どう指導するか」を大切に。指導があつてこそその評価です。そして、評価を次の指導に生かしていきましょう。

■ 道徳科の目標を読もう ■

道徳科の目標には、道徳科で養う道徳性の諸様相が示されています。
では、評価も児童生徒の道徳性について評価するようになるのでしょうか。



道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。 ※（ ）内は中学校

道徳的な判断力

それぞれの場面において善悪を判断する能力
＝「道徳的価値を理解し、正しい判断をしよう。」

小解説 p. 16
中解説 p. 13

道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情
＝「善いことをしたり、見たりすると気持ちがいい。」
「悪いことをしたり、見たりすると気持ちが悪い。」

道徳的実践意欲と態度

道徳的判断力や道徳的心情によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性
＝「正しい判断をすると気持ちいいから、それを実現してみたい。こんなふうにしてみたい。」



道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度の育成が、道徳科の目標なのね。評価では、これらの道徳性について評価すればいいのかしら。

いいえ。道徳科の目標は道徳性の育成ですが、道徳性が養われたかどうかは、容易に判断することができません。ですから、道徳科では、**児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、評価**します。



小解説 p. 109、中解説 p. 111



ポイント！

指導に生かされ、児童生徒の成長につながる評価を行うこと。これが道徳科における**指導と評価の一体化**です。

児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子についての評価



児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子について評価する際、特にどのような視点を重視したらいいのでしょうか。

- 一面的な見方から**多面的・多角的な見方**へと発展させているかどうか
- 道徳的価値の理解を**自分自身との関わり**の中で深めているかどうか

この二つの視点を重視し、児童生徒が自らの成長を実感できるようにしましょう。

小解説 p. 109、中解説 p. 111



多面的・多角的な見方

- ・判断の根拠、そのときの心情を様々な視点から捉えようとしている
- ・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている
- ・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を様々な考えようとしている など

自分自身との関わり

- ・登場人物を自分に置き換えて考えている
- ・自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している
- ・自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている。
- ・道徳的価値の実現の難しさを自分のこととして考えている など



ワンポイント・アドバイス

指導要録の評価について

◎記述式で評価

◎大きくくりなまとまりを踏まえた評価

△1時間の授業の姿 △個々の内容項目ごと

◎よさを認め、励ます個人内評価
△他の児童生徒との比較

◎学習上の困難さの状況を踏まえた評価

※調査書には記載しないこと

道徳科の授業に対する評価



児童生徒に対する評価と同時に、授業に対する評価も大切です。どのような観点から評価すればよいのでしょうか。

「道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、自己の（人間としての）生き方について考えを深める学習」となっていたかを振り返ってみましょう。

例えば、次のような観点が大切になります。



発問・教材

- ・児童生徒が多面的・多角的に考えたり、道徳的価値を自分のこととして捉えたりできるような発問・教材（教具）であったか

小解説 p. 115、中解説 p. 117

児童生徒との関わり

- ・児童生徒の発言を傾聴して受け止め、発問に対する反応を、適切に指導に生かしていたか
- ・特に配慮を要する児童生徒に適切に対応していたか